

第1回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会
The 1st PDA Junior High School Parliamentary Debate National Competition

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2018年3月17日(土)

会場：朝日新聞本社 12階アサコムホール

(〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島2丁目3-18)

主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

後援：朝日新聞社、朝日中高生新聞、

一般社団法人 日本英語交流連盟、公立大学法人 大阪府立大学

助成：公益財団法人 日本財団

協賛：TOEFL junior®

開催趣旨：

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。

(参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>)

参加校：(青森県) 八戸聖ウルスラ学院中学校

(千葉県) 翔凜中学校

(東京都) 筑波大学付属駒場中学校 2

(東京都) 都立富士高等学校附属中学校

(神奈川県) 浅野学園中学校

(愛知県) 東海中学校

(愛知県) 南山中学校 女子部 2

(滋賀県) 滋賀県立守山中学校

(滋賀県) 竜王町立竜王中学校

(大阪府) 関西創価中学校

(熊本県) 熊本県立八代中学校 2

11校 14チーム

タイムスケジュール：

12:00 開会式
12:20 予選1
13:30 予選2
14:40 決勝進出チーム発表、決勝準備
15:00 決勝
15:20 レクチャー
15:40 表彰式、アンケート
16:00 終了

ご挨拶：

本大会は PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会の第一回目となります。

昨今、急速なグローバル化、科学技術の発展など、社会は目まぐるしく変化しています。そのような時代の中、社会の出来事を知り、どのような選択が大事であるか、自ら論理的に考えて、また英語で表現する力はますます重要になってきていると思います。本大会は即興型英語ディベートを通し、全国の中学生と議論を交わすことで、様々なスキルを鍛え、今後のさらなる勉強へ繋げていただければ嬉しく思います。

また本全国大会は、授業での即興型英語ディベートの延長となるよう授業導入可能なフォーマットとしています。すでに全校的に授業導入されている学校はもちろん、まだそうでない学校におかれましても、本日の学びを日々の授業へ生かして頂ければ幸いです。

一般社団法人パーラメンタリーディベート人材育成協会（PDA）代表理事
中川智皓（大阪府立大学工学研究科・助教）

メッセージ：

中学生による全国大会の初開催おめでとうございます。あるテーマについて何が問題かを探り、主張を戦わせる。ディベートは、実は世界を動かすうえで大切な役割を果たしています。今の時期に、全国の仲間と競うことができるのはとても素晴らしいことです。大会では勝敗も大事ですが、競うなかできっと新しい考え方に加えて、新たな友人が見つかるでしょう。今日の一日が皆さんにとって大切な宝物になることを願っています。

キーノートスピーカー 朝日新聞大阪本社代表室長補佐兼広報担当部長
安東建 氏（元ナイロビ、テヘラン特派員）

青森県から熊本県まで全国の中学校が参加され、朝早くから飛行機や新幹線で大阪入りしていただきました。



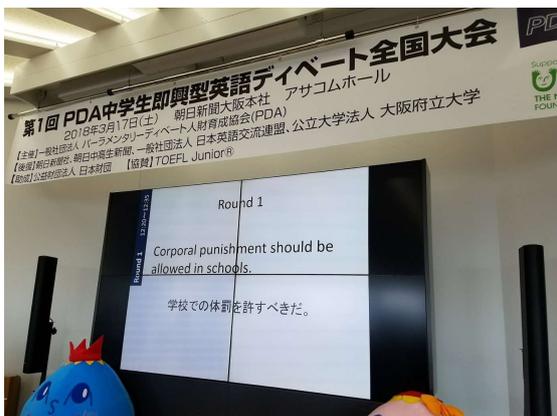
後援、協賛くださいました企業、団体様から、生徒たち、保護者の方々への配布資料等です。朝日中高生新聞にはPDA代表理事 中川智皓による「ニュースで！即興型英語ディベート」の月連載のコーナーもあります。

正午、開会式がはじまりました。14チームの参加高校が紹介されました。約100名の中学生・教員・保護者・見学者が集まりました。大会でのルール諸注意、大会ジャッジとして参加していただいた教員や大学生へ向けたジャッジ手順の確認が行われました。



(写真右) POI (Point of Information) ディベートのラウンド中にスピーカーに対して質問できることをいいます。このユニークなポーズは、昔のイギリス議会の議員をまねしたもので、彼らは長髪のかつらをかぶっていたため、起立して質問するときはかつらが落ちないように手で押さえていた名残といわれています。

予選1が開始されました。14チームが7テーブルを使い一斉にディベートを行います。いよいよ大会が始まるという緊張感のなか、生徒たちはどのような論題が発表されるか真剣なまなざしで注目しています。予選1の論題は、Corporal punishment should be admitted in schools. 「学校での体罰を許すべきだ。」です。



論題が発表されると15分の準備時間になります。対戦チームに自分たちの戦略が聞こえないように相手チームから離れて話し合う生徒たちもいます。この15分の間に自分たちチームの方針やそれをサポートする理由を論理的に組み立てていきます。また相手チームの方針を準備時間に予想することで本番の反論パートを有利に運ぶことができます。

PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会では、1チーム3人ですが、中学生全国大会では4人チームも認められています。その場合、1つのパート (MG/MO) を2人で分担しておこないます。



PDA スタッフからスマートホンによるジャッジ入力システムについての説明がありました。以前は投票用紙にて投票していたので集計が大変でしたが、いまはラウンド終了後すぐに自身のスマホからジャッジの結果を送信してもらい、一括で管理することができるようになったため、たいへん便利になりました。ラウンドごとの生徒名もあらかじめインプットされています。



予選1ラウンドの様子です。生徒たちはしっかり前を向き、自分たちチームの考えや方針、また相手チームに対しての反論を一生懸命に英語で伝えます。スピーカーの話聞き洩らさないよう聞く側も真剣です。



ラウンドが終了するとジャッジによるラウンド全体に対してのリフレクションがあります。教員や社会人、大学生によるジャッジは、論理的かつ教育的配慮を心がけて説明するようにします。チームの勝敗を発表したのち、何故そのチームが勝ったのかという理由の説明があります。続いて生徒たち一人ひとりに対してコメントが丁寧に説明されます。全力で戦った自分へのコメントをもらうわけですから、ジャッジの言葉を生徒たちは真剣に聞いています。笑顔でジャッジの説明を聞くチームもあります。



予選2の論題は、Domestic travel is better than traveling abroad for a school trip. 「修学旅行は海外よりも国内のほうがよい。」です。GovernmentもOppositionも実際の事例を元にいろいろな例を展開し、さらに白熱した議論となりました。



(写真右) 大会1位から3位のチームにはトロフィーが授与されます。

2戦目になると、積極的にPOIもあちこちで見られました。POIを受けたスピーカーはNo,thank you.と言って質問を受けない選択もできますが、2ラウンド目がはじまる前に中川代表理事から「POIを断ることはダメではないですが、毎回断ると「議論を共有する姿勢が見られない」とジャッジに見なされて減点ポイントになることもあります。」といった説明があったからでしょうか、POIを断らずに受ける生徒たちが何人も見られました。中学生たちは素直ですぐ行動にうつすことができます。



(写真右) ラウンド終了後は対戦チーム全員と必ず握手を交わします。ディベートは紳士淑女のゲームのため、きちんとした礼儀正しいマナーが求められます。

ラウンド中は一生懸命に議論を戦わせますが、試合が終わるとすぐに生徒たちから安堵のためか笑顔がこぼれます。そのあとジャッジからの勝敗発表を待つ間も、相手チームの地元のことをたずねたり、いま流行りのものの話題であったり、中学生らしい普通の会話を楽しんでいました。

2戦目が終了し休憩時間をはさんでから、決勝戦進出チームの発表がありました。決勝戦の論題は、Japan should accept more refugees.「日本はもっと難民を受け入れるべきだ。」です。すぐに決勝進出チームは準備にとりかかります。決勝戦は全員の前でディベートするため、壇上でラウンドをおこないます。またジャッジも一人ではなく、複数人のジャッジによる判定でチームの優勝が決まります。

中学生にすると、もしかすると少し難しめの論題かもしれませんが、実際、決勝戦では Government チームも Opposition チームも互いにとても素晴らしい議論を展開してくれました。Gov 側は難民を受け入れることで現状日本が抱えている労働力の不足問題を解決できる、といった点を、また Oppo 側は難民を受け入れることよりも日本政府はまず日本国民を守ることが優先事項だ、といった点を、それぞれチームの方針を力強く英語で説明することができました。





決勝戦の結果が出るまえに、本大会のキーノートスピーカーである朝日新聞大阪本社代表室長補佐兼広報担当部長の安東建氏より、決勝戦の論題であった難民に関するキーノートレクチャーを行っていただきました。シリア紛争での難民、現状での日本政府による難民への対応問題、またリオ五輪オリンピックでの難民団体チームの参加など、難民についての様々な話題をレクチャーしてくださいました。学生たちに考えていただきたいのは、なぜ難民は生じるのか、なぜ紛争は起こるのか、など新聞を読んだり、ニュースや本を読んだりしてまず知識を深め、そこから解決策を考えて欲しいというメッセージをいただきました。



(写真右) 優勝チームが決定し表彰式が行われました。チーム賞、個人賞の授与が行われました。

優勝チームには賞状、トロフィーに加え、副賞として TOEFL の無料受験資格が与えられました。

最後に、熊本県立八代高校・中学校の山本朝昭校長先生よりメッセージをいただきました。八代高校・中学校ではすでに授業で即興型英語ディベートを導入しており、非常に効果的であること。また即興型英語ディベートを体験することで2つのことを持ち帰って欲しい、1つは自分の強みを知る、そして2つめに自分のやらないといけないことをきちんと言葉で認識することに努めてほしい、と生徒たちに対するメッセージをいただきました。また、社会で発言できるだけの知識を養うこと、それを英語で伝えるということ、まさに即興型英語ディベートは学生たちにとって必ず有効なものになるという大変有難いお言葉を頂戴しました。

また PDA 中川代表理事から、即興型英語ディベートを学ぶことで誰もが、またどういった将来を選んだとしても必ず役に立つと確信しています、と自身のこれまでの経験や、さらにこれから進めていくプロジェクトにも即興型英語ディベートで得たスキルを実際に生かすことが出来ているといったわかりやすい体験談を交え、ディベート学習を通じて学生たちの未来を応援しているというメッセージで締めくくっていただきました。



第1回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会結果

<チーム賞>

優勝：浅野学園中学校

準優勝：東海中学校

第3位：筑波大学附属駒場中学校 A チーム

第4位：熊本県立八代中学校 A チーム

ベストディベーター賞：11名

ベスト POI 賞：8名



優勝：浅野学園中学校



準優勝：東海中学校



アンケート（抜粋）

1. 生徒の感想

- ・全国から来られた方を英語でつながることが出来たことが、とても良い経験になりました。中学校3年生の英語を聞くことができ嬉しかったです。（竜王町立竜王中・2年）
- ・発音が良いすぎて私には聞きとれない英語ばかりでしたが、とても良い経験になりました。私は伝えたいことをどうやってうまく英語になおすかすごく頑張りました。POIもされた時すごく緊張しましたが、少しでも自分の思いが伝われば良いなと思って話しました。（竜王町立竜王中・2年）
- ・他校の生徒とディベートという形で交流し、丁寧にアドバイスしていただき、今後の英語学習に対するモチベーションが上がった。（県立守山中・3年）
- ・この大会で、ますます英語の必要性を感じた。他の人のを聞くことで自分になりなかつたものがわかった。（県立守山中・3年）
- ・初めてのディベートだったのですが、とても楽しく参加させて頂きました。第1回ということで、中学3年でなければ次も参加したかったです。（関西創価中・3年）
- ・初心者だったため、混乱することもあったが英語で話したり他校との交流もあり楽しかったです。（関西創価中・3年）
- ・同じ学年にこのようなすばらしい人たちがいるということに驚きました。負けてられないです。（南山中女子部・3年）
- ・初めて大会に出たのでとても緊張しましたがすごくいい経験になりました。（南山中女子部・3年）
- ・We didn't have chance that communicate with other schools.
So today was very awesome.（東海中・1年）
- ・他校の人と戦って、交流できたこと。解説をいただけたこと。楽しかった。いい機会になった。（東海中・1年）
- ・もっと頑張ろうと思えた。同じ中3の子たちが、英語が話せる+中身も豊かで頭を使って社会問題について考えて、さらに視野が広いということを知って、刺激になりました。（都立富士高校附属中・3年）
- ・ディベートのおもしろさに改めて気づけた。（都立富士高校附属中・3年）
- ・とても素晴らしい大会で、他校との交流もはかれて、視野の広がる機会になったからです。（浅野中・3年）
- ・ハイレベルで常にあせってしまいました。（浅野中・3年）
- ・即興型ディベートは苦手だが楽しくできた。他校の生徒とも交流できてよかった。（筑波大学付属駒場中・2年）
- ・試合数が少し少なかった気がする。（筑波大学付属駒場中・2年）
- ・他校の優秀な生徒さんと意見をたたかわせるという普段ではなかなかできないような経験ができ、楽しかったです。（翔凜中・3年）

- ・ディベートを実さいにやってみて、自分の英語がちゃんとつうじたのでうれしかったです。(翔凜中・1年)
- ・他校の生徒のすごい英語力を目の当たりにして、もっと英語を頑張ろうと思いました。賞をとることができなくて、とても悔しい気持ちでいっぱいですが、今日学んだことを活かし、高校でもPDAに挑戦したいです。(県立八代中・3年)
- ・他の中学校の人たちとディベートすることで、新たな発見をすることができた。また、話し方、考え方について学ぶことがたくさんあった。(県立八代中・3年)
- ・普段は会えない他の中学のレベルに触れることができた。(県立八代中・3年)
- ・ディベートの楽しさがわかりました。ジャッジのアドバイスもよかったし、大会もとても効果的だと思いました。(八戸聖ウルスラ学院中・3年)
- ・中学校でも後輩に伝えていきたいと強く思いました。(八戸聖ウルスラ学院中・3年)

2. 教員・見学者の感想

- ・中学生によるディベートのイメージがなかったのですが今大会で、中学生の皆さんの意見の展開や英語で論破しようとするエネルギーに感銘を受けました。
- ・中学生の力に感動しました。強いチームと戦うことで、さらに力をつけていく若さは素晴らしいと思います。
- ・本大会に参加させていただいて本当にありがとうございました。3人の子供たちそして他校の中学生の子供たちがめったにできない経験をさせていただきました。生き生きと英語で自己表現をしている姿を見れることは本当に素晴らしいです。これからもこの大会を続けて行ってほしいです。
- ・とてもレベルが高く参加校同士が互いを高められたのではないかと思います。
- ・もう少し試合を多くしたらいかがでしょうか。
- ・中学生にこのモーション、それに関するレクチャー、素晴らしい選択だと思いました。未来につながるイベント共感、賛同します。
- ・日本の教育を講義型ではなく参加型に。そのモデルとして広まってほしいです！ジャッジのポイント、アドバイス、とてもおもしろく興味深く拝見しました。
- ・来てよかったです。

3. キーノートレクチャーについて

- ・報道の第一線で活躍されている方のお話ということで、リアリティーを感じさせる内容で、中学生の皆さんへの深い問題提起につながったと思います。
- ・非常にわかりやすかったです。
- ・貴重なお話がきけました。学校でもディベートでとりあげた内容を他の授業(社会や総合)でとりあげる学びを深めたい。
- ・子どもたちのディベートの中で、難民がテロリストになる訳じゃないぞ！という点はかな

りひっかかっていたので、そこに触れていただいたのが良かったです。

- 中学生にこのモーション、それに関するレクチャー、素晴らしい選択だと思いました。未来につながるイベント共感、賛同します。
- 遠い外国の事に関心を持ち行動する事は自分自身にとっても実はとても大切な事がよく分かりました。

以上